



民間の災害伝承の意義

神戸大学名誉教授
元・人と防災未来センター展示検討委員会委員長
室崎 益輝



災害伝承の目的と手段

災害伝承の目的・・・なぜ I

- 事実を記録や記憶として残し、鎮魂と減災のための糧や礎とする・・・**実在確認、鎮魂慰霊、減災創造、世界連帯**

- (1) かけがえのない歴史的眞実を存在の証として残す
- (2) 失ったものへの尊厳と感謝の気持ちを伝えて残す
- (3) 同じ悲しみを繰り返さないよう減災の文化を育む
- (4) 人間の弱さと強さを伝えて未来創造のバネとする

災害伝承の性格・なぜⅡ

- ▶ 災害伝承とは、災害の経験や教訓を受け継いで、未災地や次世代に伝えてゆくこと
 - (1) 被災地責任であり被災者責任
支援の「**恩返し**・恩送り」、減災の「率先・垂範」
 - (2) 減災社会をつくるインフルエンサー
意識や知識を育む、目標と課題を示す
意識啓発であり**動機付け**でもある
 - (3) 追憶と追悼のバトンリレー
被災と復興の事実と**思い**を記録として残す

災害伝承の内容・・・何を

■ 伝承で何を伝えようとするのか・・・その原点に、ひとり一人の思いと、時代のメッセージがある

(1) 自然の大きさと厳しさ

減災の原点としての自然との関係

(2) 人間の逞しさと愚かさ

災害を招いた誤謬と復興を遂げる正義

(3) 地域の包摂性と縦帯性

生活と生業を支えてきた地域への思い

(4) 災害の悲惨さと残酷さ

地獄絵を描くことによる減災の動機づけ

災害伝承の方法・・・いかに

- ▶ 伝承をどのようにしてはかるのか・・・
ひとり一人の思いを文化にして伝えることが大切・・・
伝承の5要素（もの、ひと、ば、しくみ、こころ）

口述伝承、遺構伝承、記録伝承、生活伝承

- (1) 語り部と語り場
- (2) ハードとソフト
- (3) 記憶と記録 集合的記憶
- (4) アナログとデジタル
- (5) 保存と発信
- (6) ボンド型とブリッジ型



民間主体の意義と展開

災害伝承の正四面体

- ▶ 災害伝承をはかる主要な担い手は大きく、被災者自身、被災コミュニティ、市民団体・NPO（メディアや専門家を含む）、公的機関・行政組織（国を含む）に分けられる・・・この四者が正しくつながること、民と官が車の両輪になること

（1）官民の関係は俳優と舞台の関係

（2）ボトムアップ型の重層的な関係

上からの介入はファシズムにつながる

被災者と被災地を軸にした、ボトムアップ型あるいはネットワーク型の伝承を、NPOや中間組織が知恵の応援し、国と自治体が資金の応援をする

民間主体の必然性

- 被災地や被災者が主体にならないといけない・・
伝承の目的や内容あるいは手段からして、現場発信
や協働統治が求められる

- (1) ボトムアップ型の発信と伝承
- (2) バトンタッチ型の発信と伝承
- (3) 地域文化形成型の発信と伝承
- (4) 市民社会運動型の発信と伝承

いずれも民間が主役にならないと成り立たない

民間主体の伝承事例

- 内外の過去の勝れた伝承事例をみると、その殆どが被災地や民間の努力により成し遂げられている
 - (1) 祭礼 ・ ・ 京都の祇園祭、田結のお千度参り
 - (2) 遺構 ・ ・ 広島原爆ドーム、リスボンのカルモ教会
 - (3) 伝承碑 ・ ・ 三陸津波の記念碑
 - (4) 文学 ・ ・ 小泉八雲の稲むらの火、中澤啓治のはだしのゲン
 - (5) 伝承館 ・ ・ 雲仙の噴火ミュージアム
 - (7) 民話歌 ・ ・ シムル島のスモンの歌
 - (8) 基金 ・ ・ 阪神淡路大震災のHAR基金
 - (9) その他 ・ ・ 神戸大学の「被災者聞き語り調査」

3.11メモリアルネットワーク

- 東日本大震災の伝承活動を中間支援組織としてコーディネートしている先進的事例が「3.11メモリアルネットワーク」の活動である・・・
民が民を支える先進事例

(1) 民主体の取り組み

(2) 面としての取り組み

地域や世代や属性を超えた多様な連携

(3) 伝承基盤構築の取り組み

人材育成と基金事業

にもかかわらず、社会包摂が実現していない！